

# 国際室 だより

No. 48

## 招へい研究員のみた日本と地質調査所

昭和63年度から平成元年度にかけて 地質調査所に招へいされた海外の研究者のうち 長期に滞在された3人の方からいただいた 日本での生活や招へい制度についてのメッセージを紹介します。 昨年度から新しい招へい制度がいくつも発足し 研究交流が促進されています。 これらの制度がますます充実して研究の推進に寄与することを期待したいものです。

## 日本の生活の印象

Lena Karin Maxe (スウェーデン王立工科大学)

日本での生活や経験についての印象を書くよう依頼されたときは いささか途方に迷ってしまいました。

日本についての当初は何もかもが目新

しく 新鮮で心を躍らせるものがありました。 6ヶ月間さまざまな刺激を受けつつもまだまだ新しい発見がありますが 同時にそうした刺激は日常生活の中の心地よいリズムのようになってきました。

私の記憶には 日本で暮しはじめた頃の印象が強くやきついています。 電気炊飯器の複雑な操作法に戸惑ったり 田舎びた村を道を探しながら自転車で走り抜けるひとときとか またスーパーマーケットに並ぶ未知の食べ物とか。

でも もっとも印象が強く忘れ難いのは 地質調査所の皆さんの思いやりとやさしさです。 スウェーデンでも いやヨーロッパ中探しても ここでめぐりあえたような数多くの親切な友人を見つけるのはむづかしいと思います。 再び日本を訪れてみなさんにお会いできるのを楽しみにしています。

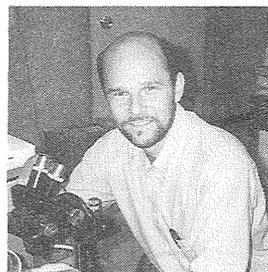
(地下水汚染物質の深層拡散機構に関する 研究: 工業技術院国際研究交流事業, 63年10月1日~1年3月31日)



## 工業技術院フェローとしてのおぼえ書き

Gary L. Cygan (USGS)

日本で過ごした8ヶ月間のわたしの経験と観察が 工業技術院の国際交流事業にフィードバックされることを期待しつつ 研究環境と日常生活との二つの観点からわたしのおぼえ書きをまとめてみます。



## 研究環境

わたしの所属する USGS の人事記録には 今回の日本滞在は 研究遂行のための派遣として記録されています。 つまり 工業技術院フェローの応募の際に提案した研究テーマを含む USGS でのわたしの職務を一時的に筑波へ来て継続することがその目的です。

わたしの地質調査所での研究の主眼は 鉱物資源部の浦部徹郎博士と協力して 高温のマグマ中での貴金属の挙動を調べるための実験にありました。 この実験は大変に難しいものですが それを克服して一応の成果を挙げることができました。 5月中旬までに この研究についての様々なアプローチをレビューした論文を地質ニュースに投稿できればと思っています。 また 残された時間に得られる結果次第で専門誌に成果を報告することもできるかもしれません。

日本語教室: 工業技術院フェローのための日本語教室は大変優れたものでした。 けれども 4週間毎日2.5時間続けるよりも 週2~3回のペースで2~3ヶ月続いたほうがより効果的ではないでしょうか。 そうすれば 教室で学んだ内容を消化して実生活の中で使いながら次のステップへ進むことができると思います。

フィールド旅行: 日本国内の旅行にはとてもお金がかかります。 招へい研究員が地質学者の場合 フィールドへ調査旅行に出かけることは当然予想されるはずですが、にもかかわらず 研究員に支給されるのは交通費だけで 宿泊費と食費は 本来研究者とその家族の生活費

となるべきお金からそれを支出しなければならず 大きな負担を強いられました。

さらに フィールドに同行してくれる日本の研究者にもなんらかのかたちで旅費が支給されてしかるべきではないでしょうか。特に招へい研究員の補助だけが目的の旅行において地質調査所の研究者がすべて自費で旅費をまかなわなければならないのは 片手落ちです。もし研究員の受け入れ部の部長や課長の承認だけで可能なものであれば 研究員のための研究費から 研究員自身と同行してくれる研究者の食費・宿泊費が支出できるとよいと思うのですが、ほかに地質調査所の受け入れ担当者の経済的負担を軽減する方法がなければこれが最良の方法であると思います。

### 日常生活

日本語：日常生活のレベルでの文化交流のためには研究員だけでなく 家族にとっても基礎的な日本語が不可欠です。このために 家族に対しても日本語を学ぶ機会が与えられることを望みます。

交通：現在のつくばはかなり交通が不便ですが 今後10年くらいにこの状況は大幅に改善されるものと信じます。けれどもわたしの滞在中 つくばでの移動は大変な障害でした。任意保険もセットされたレンタカーを研究員本人や家族のために割安に斡旋するようなシステムはできないのでしょうか。また家族にも自転車も貸してもらえたら おおいに助かったことでしょう。

長距離の旅行についても問題があります。滞在中には研究員のだれもが家族と一緒に日本各地へ旅行してみたいはずですが、ところが ビザの種別からくる制限のため 割安な外国人旅行者向けのJRパスは使うことができないのです。招へい研究員からJRパスを使う資格を奪うようなビザの差別はやめてもらえないでしょうか。もしそれが無理なようなら たとえば招へい研究員のための特別の割引パスをJRが提供するか 家族に限って文化活動のビザを発給するかといった名案はないのでしょうか。

公共料金の支払い：月々6ないし8通の請求書が家に届きますが 日本語で何が書いてあるかわかりません。こうした請求書は たとえば研究交流センターに配達して1ヶ月分まとまったところで解説入りのリストにして研究員の手に届くようにすればどうでしょう。研究員にとってはこれが一番楽な方法だと思います。何回も銀行へ足を運ばなくてすむし なんといっても自分が何の支払いをしているかが解るといことが大切です。

### 結び

以上に記したのはあくまでもわたしの経験にもとづく

提案であって 批判ではありません。地質調査所での滞りは研究の面でも私生活の面でもこのうえなく楽しく有益なものでした。新たに発足した招へい制度の最初の研究員になったことは大変に光栄なことでした。地質調査所が通産省と共に 先進国間の研究交流を促進するこの有益な制度を一層素晴らしいものにされるよう努力されることを望みます。最近 研究員の住宅の家賃の支給制度が改善されましたが これも制度の成熟のための“微調整”の努力の現れだと思います。

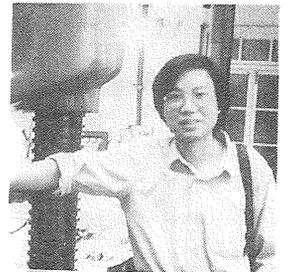
個人的な面でわたしと妻は 地質調査所の数多くの方々から多大の配慮をしていただき感謝にたえません。このおぼえ書きが工業技術院の招へい制度をより実りあるものにするために役立つことを期待します。

(花コウ岩マグマ・水系の実験的研究：工業技術院 国際研究交流事業、63年10月11日～1年5月31日)

### 日本を去るにあたって

雷興林 (中国国家地震局地質研究所)

在日本 有許多東西源自中国 却青出於藍而勝於藍。對於一個中国人 這是值得深思的。此乃我訪日四月之最深感觸。一日本には中国から来たものがたくさんありますが しかし青は藍より出でてなお藍よりすぐれている。ひとりの中国人にとってこのことは深く考えてみる価値があります。これこそが私の四ヶ月間の訪日の最も深い感動であります (写真参照)。(室内実験による地震予知の基礎的研究：ITIT 特別研究員63年10月15日～1年3月17日)



在日本、有許多東西源自中國，却青出於藍而勝於藍。對於一個中國人，這是值得深思的。此乃我訪日四月之最深感觸。

一九六九年青島  
雷興林